

科目名	診療画像技術学臨床実習				分野・必選別・単位数	専門実習科目	選択	4単位
担当教員	◎教授 岡本孝英 准教授 大松将彦 講師 横塚記代 講師 林 達也					授業方法	実験・実習	
課程	博士後期	配当年次	1・2・3年のいずれか	配当学期	通年	配当コース	診療放射線コース	
授業の概要	診療画像技術学は診療放射線技師の職業の根幹を成す重要な領域である。このことを配慮し、学究的な日常においてもこの領域の研鑽は実学として大切であり、医療従事者としての診療放射線技師の誇りを持ち、社会との強い連繋を培うことを目的として臨床実習を実施する。							
授業の到達目標	臨床実習により経験した、それぞれの放射線技術に関して医療的な側面および学問的な側面より概説できる。							
授業計画	回数	担当者			行動目標			
	【行動目標】 学部卒業後、臨床に就くことなく博士前期課程さらに博士後期課程に進むことにより、以前に経験した実習や病院臨床実習で培った技術、知識が時間とともに不毛となってしまう問題が危惧される。そこで、診療放射線技師の職業の根幹を成す重要な領域である診療画像技術学の臨床の場に於ける実地研鑽を行い、その知識を修得する。 博士前期課程でも行なった「診療画像技術学臨床実習」を、以前に行なった時と同様に、経験豊富な先輩技師の教育、指導の下で再度、患者に対する医療を試みて、その評価ができる。							
事前事後学修の内容およびそれに必要な時間	【事前学修】	今回の実習内容を予習し、用語の意味等を理解しておくこと。						
	【事後学修】	実習中の疑問点をまとめ、関連する成書や文献などを利用し、次回授業までに解決しておくこと。						
	【必要時間】	該当期間に60時間以上の予復習が必要。						
教科書	特に指定しない。							
参考書	特に指定しない。							
評価方法	臨床実習への取り組み80%、レポート20%							
その他履修上の注意事項	実習場所: 帝京大学医学部附属病院 試験やレポート等に対し、講義の中で解説等のフィードバックを行う。 カリキュラムマップのDP2が、この科目と本専攻の学位授与方針との関連を示している。							